

子どもからお年寄りまで 町内各地で楽しい節分

二月三日、曹洞宗の修験道場として名高い沢海の大栄寺の本堂において、近所の人たちなど



大栄寺本堂で行われた豆まき

がたくさん集まり、恒例の豆まきが行われました。僧侶たちが「大般若経」を転読し、家庭繁栄等の幸せを願って唱和を行った後、豆やお菓子がまかれ、子どもからお年寄りまでが歓声をあげながら拾っていました。また、町内の各保育園でも豆まきが行われました。中央保育園では、はじめに園長先生による鬼のお話があり、園児たちは、赤や青、一本や二本の角、四角い顔や丸い顔のいろいろな鬼の手作りのお面をか



手作りのお面をかぶる子どもたち

ぶり、真剣に話に聞き入っていました。その後、園児たちはステージから「鬼は外、福は内」と元気の掛け声で豆を投げて、みんなの心の中にある悪い鬼を退治したり、豆を食べたりと、節分を楽しみました。

新潟県立自然科学館 三月の催し物案内

◎新展示
『恐竜の体と暮らし』
二月二十七日にオープンしました。
◎内容
中生代のオープンジオラマを舞台に様々な恐竜が登場するほか、大型モニターなどを使っての恐竜やその時代などの紹介、化石コーナーなどがあります。
◎春の特別展
『ヤン・ソバック博士の恐竜画展』
◎内容
恐竜が住んでいた頃の中生代の世界、自然の姿を、

イギリスの自然史博物館の動物学者ヤン・ソバック博士の描いた美しく精密な恐竜画を使って紹介しています。
・期間
三月二十日(土)～四月四日(日)
◎三月の休館日
八日、十五日、二十九日(月)、二十三日(火)
▼問い合わせ
新潟県立自然科学館 ☎二八三―三三三―

耳よりの情報

～広域情報ネットワーク～

＜新津市＞

警越西線SL運行

4月29日から11月末までの土曜・日曜日、祝日を中心に1日1往復(ただし、20日間は片道運転のみ)運転されます。

新津と会津若松の間を3時間余りで走り、途中の津川駅などでは撮影タイム(10分～15分程度)も用意されています。

・新津 10:00発 会津若松 13:18着

・会津若松 15:13発 新津 18:24着

▶問い合わせ JRの駅窓口、JRびゅうプラザ、または、新津市役所 農・産業振興課 ☎0250-24-2111

＜小須戸町＞

日本ボケ展

ボケの展示・即売会が日本一の規模で行われます。約2万鉢が展示即売されるほか、ボケの手入れ講習会や相談コーナー、ボケ酒の試飲コーナーなどがあります。

▶日時 ボケ展 3月5日(金)～7日(日) 午前9時～午後5時 (2日目は午後4時まで)

▶会場 小須戸町民体育館(小須戸町横川浜)

▶問い合わせ 小須戸町役場 産業課 ☎0250-38-3111

＜笹神村＞

五頭温泉郷旅館対抗鍋合戦

18旅館の板前さんが腕によりをかけて調理した自慢の鍋料理(1杯100円)を参加者に試食審査していただきます。そのほか、1500人分の「ごめんなさい鍋」(無料)も準備しています。

▶日時 3月13日(土) 正午開始

▶会場 新潟ロシア村国道290号線脇駐車場 特設会場

▶問い合わせ 笹神村役場 企画商工観光課 ☎0250-62-4141

1月資源ごみ収集実績

空きびん	6.8 t
空き缶	4.4 t
古紙	19.6 t
合計	30.8 t

3月資源ごみ収集日

地区	収集日
横越・川根谷内	9日(火)
	27日(土)
その他の地区	11日(木)
	25日(木)

ふる里物語

町史編さんだより ⑤2

公民館結婚式

戦後、「新生活運動」の一環として、新しいスタイルの結婚式が模索され、「質素で厳粛」を基本理念とした「公民館結婚式」が、昭和三十七年に横越村で実現しました。

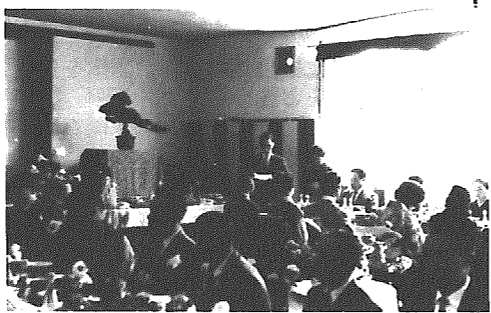
公民館結婚式は、これまで行われてきた家との家とのつながりを重視した従来の結婚式のスタイルを大きく変え、参列者が新郎・新婦を祝福しようという

ものでした。したがって、挙式は参列者全員の前で行う人前結婚式で、会費制でした。披露宴の席順もメインテーブルに新郎・新婦が着き、両脇に仲人、それぞれの両親が座り、参列者が祝うというものでした。

従来の結婚式では、本膳は主だった親戚のみ席に着き、二番膳に友人を呼ぶしきたりであり、席順も仲人が床柱をかつぎ(床の間を背にした)、番上座の席に座ること、婿は席につかず、台所でうろうろしていることが多かったのです。

したがって、今までのしきたりを破り、新しい方法をとり入れた公民館結婚式が住民から理解されるまで、かなりの時間を要することになりました。

親戚づきあいの多い農村では、会費制で出席してもらおうことへの抵抗や、折り詰程度の料理、風呂敷程度の引出物など



新婦側親類のあいさつ風景(同結婚式にて)

ジンギの軽いことへの抵抗が大きかったのです。

昭和四十四年に新しい公民館が完成し、公民館結婚式を推進したことにより、人々から次第に理解され、昭和五十年までの六年間で一〇九組の人が公民館結婚式をとり行うまでに普及していききました。これからは公民館結婚式も次第に理解され、定着するかと思われましたが、日本は高度経済成長期に入り、物質的豊かさや生活力の安定から、「豪華で華やか」な結婚式を人々は求めるようになっていきました。

昭和五十年代に入ると、民間の結婚式場が各地にでき、公民館結婚式もその役割を終了するに至りました。しかし、公民館結婚式のスタイルはそのまま生き続け、現在

第九回景観再発見事業 写真コンテスト表彰式

二月九日、第九回景観再発見事業写真コンテスト入賞者の表彰式が役場で行われました。

式には、入賞者十四名が出席し、浅見町長から「ふるさとを見つめなおそうとはじめたこのコンテストも九回目を数え、毎年多くの方々に参加していただいております。今回も優秀付け



県広報コンクール 一枚写真の部で入選

平成十年度(第三十六回)新潟県広報コンクールにおいて、横越町が「一枚写真」の部で入選した。この作品は、広報よこごし平成十年度十二月号表紙の左側の写真「親子で力を合わせて竹とんぼ作り」でした。

がたい作品ばかりでした。みなさんの素晴らしい作品を活用して、横越町の素晴らしいPRしていきたい」と受賞者に敬意が払われたほか、協賛団体の関係者からもレベルの高さに称賛の言葉が述べられました。この後、各賞の入賞者一人ひとりに対し、表彰状と記念品が贈呈されました。

町長賞受賞者

清水政一さんの受賞のことば
以前に村長賞を頂いたことがあり、今回は町長賞も受賞することができ、大変うれしいです。私自身も農業を営み、農家の忙しさを知っているため、農家の方々の迷惑にならないように、チューリップ畑で働いている様子を撮影しました。

選しました。

県内の各市町村より四十四点の応募があり、その中より選ばれた横越町の作品は、広報よこごし平成十年度十二月号表紙の左側の写真「親子で力を合わせて竹とんぼ作り」でした。